

大腸がん術後連携パスを受ける患者さんへ

「連携パス」とは、地域のかかりつけ医と大阪医科大学附属病院の医師が、あなたの治療経過を共有できる「治療計画表」のことです。「連携パス」を活用し、かかりつけ医と大阪医科大学附属病院の医師が協力して、あなたの治療を行います。

病状が落ち着いているときの投薬や日常の診療や定期的な検査はかかりつけ医が行い、専門的な治療は大阪医科大学附属病院が行いますので、ちょっとしたケガや日常の相談は、まずかかりつけ医にご相談ください。必要に応じて大阪医科大学附属病院を受診していただきます。また、休日や夜間等かかりつけ医を受診できない場合は、大阪医科大学附属病院までご連絡ください。

この「連携パス」を活用することで、大阪医科大学附属病院と地域のかかりつけ医とが協力し、患者さんの視点に立った安心で質の高い医療を提供する体制を構築することを目指しています。また、患者さんにとっても、長い待ち時間や通院時間の短縮などの負担軽減や、ご自身の治療計画や経過の把握、かかりつけ医の手厚い診療による不安の解消といったメリットにもつながります。

がんパスに沿った受診は手術日から5年といたします。その後の受診については大阪医科大学附属病院の主治医または連携医療機関の主治医にご相談下さい。

【かかりつけ医の役割】

- ☆ 病気の予防・日常の健康管理を行います。（手術後の定期的な検査や生活習慣病などの管理は、身近なかかりつけ医が必要です）
- ☆ 専門的治療（病院への受診）の必要性を判断します。
- ☆ 風邪など一般的な病気のことやちょっとした心配ごとなどが気軽に相談できます。

【大阪医科大学附属病院医師の役割】

- ☆ 定期的な診療を行います。（かかりつけ医と情報交換しながら、年に1～2回の診察）
- ☆ 専門的な検査・診察・手術を行います。
- ☆ 緊急を要する場合、必要な対応を行います。

大阪医科大学附属病院
Tel.072-683-1221（代表）